

ホクコートップジン®Mゾル

■種類名：チオファネートメチル水和剤
 ■有効成分：チオファネートメチル----- 40.0%
 ■PRTR法指定物質：チオファネートメチル [第1種] ----- 40.0%

■登録番号：第14230号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：1979.12.11
 ■性状：淡褐色水和性懸濁液
 ■有効年限：3年
 ■包装：5ℓ×4缶、20ℓ×1缶

【特長】

- 広範囲の病害に有効なベンズイミダゾール系殺菌剤トップジンMのフロアブル剤。
- 大豆、麦、みかんなどの空中散布、無人ヘリコプター散布で使用可能。

【適用内容】(2015年11月11日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
稲	墨黒穂病、紋枯病 稲こうじ病	1000	60~150	収穫14日前まで	3回以内	散布 空中散布 無人ヘリコプターによる散布	3回以内 (種子への処理は1回以内)
	いもち病	原液	0.2				
		4	0.8				
	変色米(イビコッカム菌)	4~8					
	紋枯病 墨黒穂病	8					
小麦	雪腐大粒菌核病	1000	60~150	根雪前	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	散布 無人ヘリコプターによる散布	4回以内 (種子への処理は1回以内、散布及び無人ヘリ散布は合計3回以内、出穂期以降は2回以内)
	赤かび病	1000~1500		収穫14日前まで			
		8	根雪前				
麦類 (小麦を除く)	赤かび病	1500	60~150	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)	散布 無人ヘリコプターによる散布	3回以内 (種子への処理は1回以内、出穂期以降は1回以内)
		8		収穫21日前まで			
	雪腐大粒菌核病	10		根雪前			
だいず	紫斑病	5	20~30	3	4回以内	空中散布	4回以内 (種子への処理は1回以内)
		20~30					
きゅうり	菌核病、炭疽病	1000	100~300	収穫前日まで	5回以内	散布	6回以内 (種子への処理は1回以内、は種後は5回以内)
トマト	葉かび病、菌核病						
なす	菌核病						
たまねぎ	灰色腐敗病	600~1000	0.8	3回以内	無人ヘリコプターによる散布	7回以内 (種子への処理は1回以内、苗根部浸漬は1回以内、無人ヘリ散布は3回以内、散布は5回以内)	
		5					
		16					2.4
やまのいも	葉渋病、炭疽病	5	3	収穫7日前まで	5回以内	5回以内	
れんこん	褐斑病	20		収穫75日前まで	3回以内	空中散布	3回以内

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (%/10a)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アフラトキシンを 含む農薬の総 使用回数
みかん	そうか病	20	8	4～6月	5回以内	空中散布	8回以内 (塗布は3回 以内、散布、空 中散布及び無 人ヘリコプター による散布は 合計5回以内)
		700～1000	200～700			散布	
	貯蔵病害 (青かび病) (緑かび病) (軸腐病)	1000～ 2000				20	
		20	10				
かんきつ (みかんを 除く)		2000		収穫前日 まで			8回以内 (塗布は3回 以内、散布は 5回以内)
もも	灰星病	700	200～700		6回以内		10回以内 (塗布は3回 以内、休眠期の 散布は1回以 内、生育期の散 布は6回以内)
おうとう	せん孔病	1500		収穫14日 前まで	3回以内	散布	6回以内 (塗布は3回 以内、散布は 3回以内)
ぶどう	黒とう病	1000		収穫45日 前まで	1回		5回以内 (塗布は3回以 内、休眠期の散 布は1回以内、 生育期の散布 は1回以内)
ストック	菌核病		100～300	発病初期	5回以内		5回以内
ばら	黒星病						
プリムラ	灰色かび病						
シンビジウム	炭疽病						
ゆり	葉枯病						
きく	黒斑病、褐斑病	—					

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤の使用に際しては、容器をよく振ってから所定量を取り出し、水に入れよく攪拌して散布液を調製すること。
- 本剤は長時間放置すると沈殿物を生ずることがあるが、振れば容易に元の状態に戻るため使用に差支えないが、必ず元の状態に戻してから使用すること。
- ボルドー液との混用はさけること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 本剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣るおそれがあるので、過度の連用をさけ、なるべく作用性の異なる他の薬剤と組合せて輪番で使用すること。
- 本剤を大型散布機(ヘリコプターなど)で使用する場合は各散布機種別の散布基準に従って実施すること。
- 本剤を空中散布及び無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意を守ること。
- ◆ 微量散布及び少量散布の場合は、微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
- ◆ 無人ヘリコプターによる散布にあつては、散布機種に適合した散布装置を使用すること。
- ◆ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布用配管、その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- ◆ 微量散布の場合、他の農薬との混用は行わないこと。また少量散布の場合は特定の農薬(混合可能が確認されているもの)を除いて原則として他の農薬との混用は行わないこと。
- ◆ 散布薬液の飛散によって自動車の塗装等に被害を生ずるおそれがあるので、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- ◆ 作業後は次の項目を守ること。
 - ① 使用後の空の容器は放置せず安全な場所に適切に処理すること。
 - ② 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に責任者を決めて保管すること。
 - ③ 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- ぶどうに使用する場合、幼果期以降の散布は果粉の溶脱や果実の汚れを生ずるおそれがあるので注意すること。
- 大豆の紫斑病に対しては落花後～若英期に2～3回散布すること。

- 本剤を散布した稲わらは家畜の飼料に使用しないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。